



沼尻竜典さん Ryusuke Numajiri

びわ湖ホール芸術監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督。プザンソン国際指揮者コンクール優勝。以来、ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、フランス放送フィル、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、シドニー響等各国のオーケストラを指揮。国内ではNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、数々のオーケストラのポストを歴任。オペラ指揮者としてはケルン、ミュンヘン、ベルリン、パーゼル、シドニー等の歌劇場にも客演を重ね、リュベック歌劇場音楽総監督時代には数々のプロダクションを成功に導いた。2014年にはオペラ『竹取物語』を作曲・世界初演、国内外で再演されている。2017年紫綬褒章受章。



撮影場所：三鷹市芸術文化センター 風のホール

地域で文化に親しみ、人を育てる “三鷹スタイル”の浸透を

三鷹市の文化活動の中心施設である三鷹市芸術文化センターは今年で開館25周年を迎えます。ここを拠点に活動するオーケストラ、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニアの音楽監督を務めるのは日本を代表する指揮者、沼尻竜典さんです。かねてから交流のある河村孝市長が、三鷹市で生まれ育った沼尻さんに、幼少期の思い出や音楽との出会い、そして、三鷹市が育んできた文化活動の独自性についてお聞きしました。

2020年新春対談 指揮者 沼尻 竜典さん × 河村 孝 市長



地域で音楽を体験した幼少期

河村 沼尻さんは三鷹市の小・中学校で学ばれたことですが、どちらにお住まいでしたか。

沼尻 昭和40年代から50年代にかけて、三鷹台団地に住んでいました。

河村 団地は当時、最新の住まいでしたか。

沼尻 昭和30年代後半に建てられた団地で、水洗トイレ、システムキッチン、そしてお風呂があります。銭湯が繁盛していた時代ですから、家にお風呂があるのは庶民の憧れでした。学校も近くて便利でしたよ。当時は子どもが多くて、近所の公園でよく遊びました。通っていた幼稚園には広い畑があったので、みんなで芋掘りをしたのを覚えています。

河村 ピアノはいつから始めたのですか。

沼尻 3歳のときです。両親が会社のコーラス部に入っていて、そこで使っていたピアノを買い替えるときに、安く払い下げてもらったんです。

河村 音楽のプロを目指す方は、相当厳しい練習をされると聞きますが、音のことで近所は大丈夫だったんですか。

沼尻 何とか大丈夫でした。それに私の場合、ちゃんと練習したのは音楽高校に入学する直前ぐらいでしたから。



河村孝市長 Takashi Kawamura

自由が生まれる 三鷹・フィルの音

河村 でも、沼尻さんの同窓生にお会いすると、小・中学校での伝説をお聞きしますよ。音楽の先生に代わってピアノを全部弾いていたそうですね。

沼尻 伝説というより便利屋さんでしょうか。朝礼で校歌の伴奏をしたり、学芸会でも劇の音楽を弾きました。でも、少し不満もあって、伴奏をしていると劇に出られないわけです。ですが、今になって思うと伴奏を通じて劇全体に目を向けられたのはいい経験だったかもしれません。本番は練習通りにいくとは限らなくて、出遅れる番や、セリフを忘れた子がいまして。前奏から弾き直したり、セリフを待たると臨機応変な対応が身に付きました。

河村 幼い頃の印象に残る音楽体験は、ほかにありますか。

沼尻 アマチュアオーケストラの三鷹市管弦楽団が親子向けのコンサートを開催していたのでよく行っていました。かかりつけの医者さんが、奏者として出演していたんです。『手のひらを太陽に』など、幼稚園や学校で普段歌っていた曲を、オーケストラアレンジで伴奏してくれるのがすごく楽しくて。

河村 三鷹で音楽に触れる機会がたくさんあったんですね。

沼尻 そうですね。父も母もクラシックが好きでした。母は地元の合唱団でヘンデルの『メサイア』を日本語で歌っていました。訳が文語調で私には歌詞の意味がよく分かりませんでした。それが、とても楽しく聴いていました。

河村 それは良い体験ですね。考えてみれば、三鷹は音楽にしても、スポーツにしても、世代を超えて受け継がれている地域です。長い時がたち、かつての子どもたちが大人になって、才能が開花していると感じています。

子どもの才能が開花する MJOの環境

河村 私が沼尻さんと初めて会ったのは、三鷹市スポーツと文化財団の前身である三鷹市芸術文化振興財団で理事長を務めていた時期でした。文化には、音楽や美術、演劇などがありますが、実は私は音楽が一番苦手です。だからこそ、沼尻さんに委ねて自由にやっていただきたと思っています。

沼尻 本気で自由にやらせていただきました。そして、このホールの運営で素晴らしいのはオリジナルのコンテンツが充実していることです。多くのホールは既にパッケージ化された企画を購入して、コンサートを開催します。それだとこの都市でも似たような企画になってしまふと同じです。幸い、三鷹はその対極にいたので発信力がある。全国的にも注目度の高いホールですね。

河村 三鷹のオリジナルの最たるものが、みたかジュニア・オーケストラ(以下、MJO)ということだと思います。

沼尻 MJOという才能を開花させる環境があったって、そこで演奏していた子が音楽大学に進学し、ミタカ・フィルで演奏するようになるなど、良い循環が生まれていますよ。

河村 そこが三鷹の独自性であり、追及すべき部分だと思います。美術でも、演劇でも、いかに独自性を追及していくかが、三鷹市スポーツと文化財団のテーマだと思います。沼尻さんには、そのDNAを作っていたらいい、本当に感謝しています。

作品の背景を学ぶことでクラシックは面白くなる

河村 ところで、クラシックを聴くうえでのアドバイスはありますか。

沼尻 自分から学ぶとさらに面白くなります。作品の時代背景や楽器のこと、演奏者のことなど何でもいいんです。古典文学や落語でも、作品の背景が分からないと理解しにくいことがありますよね。クラシックでも『モーツァルトってどんな時代に生きたのだろう』と、ちょっと調べて楽しむのは広がります。また、演奏はなるべく生で聴いていただ

三鷹らしさを大切に文化活動を目指して

河村 2020年の抱負をお聞かせください。

沼尻 3月14日に開催するミタカ・フィルの定期演奏会では、ピアノリストの横山幸雄さんとハーブ奏者の吉野直子さんが出演されます。指揮は私です。三鷹市にゆかりのある3人が出演するコンサートにぜひ、市民のみならずに来ていただきたいですね。このホールは音響も良いし、客席とステージが近いので、曲の仕組みがよく分かって面白く聴けると思います。

河村 ミタカ・フィルについてはいかがですか。

沼尻 とにかく活動を続けていくことが大切です。オーケストラはある程度の予算がないと運営できません。何事も損得勘定考えがちな世の中ですが、それだけだと音楽は一番後回しにされてしまいます。音楽は人間らしい心の表れです。その大切さを家庭、学校、

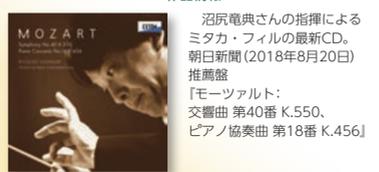
行政が一体となって伝えていくことができれば

行政が一体となって伝えていくことができれば、さら素晴らしいと思います。

河村 三鷹市では全ての小・中学校にプロの音楽家が訪れて演奏をしています。沼尻さんが三鷹で続けてこれた活動が地域の教育でも大きな役割を果たしています。市では学校を核とした地域づくり(スクール・コミュニティ)を掲げていますが、何よりも身近にオーケストラがあることが素晴らしい。音楽を身近なものとして暮らしに取り入れ、ミタカ・フィルやMJOの演奏を聴きに芸術文化センターを訪れる。それが「三鷹スタイル」として浸透してほしいと思います。これからも三鷹らしさを大切に文化活動を育んでいきたいので、ぜひご協力ください。

沼尻 はい、こちらこそよろしくお願いいたします。

作品情報



沼尻竜典さんの指揮によるミタカ・フィルの最新CD。朝日新聞(2018年8月20日)推薦盤『モーツァルト：交響曲第40番 K.550、ピアノ協奏曲第18番 K.456』

近日開催のコンサート



トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア 第80回定期演奏会 チケットの購入方法など詳しくは8面をご覧ください。

